

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
立命館大学衣笠キャンパス新体育館

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.1)

スコアシート 基本設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						4.1
Q1 室内環境			0.40			3.4
1 音環境		2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 騒音		1.0	0.40	-	-	
1 暗騒音レベル		1.0	1.00	4.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	T-2性能のサッシを使用。	5.0	0.30	5.0	-	
2 界壁遮音性能	普通コンクリートt=200の壁:Dr-45。	5.0	0.30	4.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	
1 室温設定		3.0	0.60	5.0	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.40	3.0	-	
4 ゾーン別制御性	ゾーン毎に個別空調としている。	4.0	-	3.0	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	5.0	-	
3 光・視環境		3.9	0.25	-	-	3.9
3.1 昼光利用		4.0	0.30	-	-	
1 昼光率	事務所に昼光センサーを使用。	4.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		3.0	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	昼光センサーを使用。	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御	深い庇によりグレアを制御する。	4.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		5.0	0.15	-	-	
1 照度	700lxを確保。アリーナ1000lx確保。	5.0	1.00	3.0	-	
2 照度均斉度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	5.0	-	
4 空気質環境		4.6	0.25	-	-	4.6
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	建築建材についてJIS・JAS規格のF☆☆☆☆を90%以上使用。	5.0	1.00	4.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		4.3	0.30	-	-	
1 換気量	学内の中央監視室にて一括監視。	5.0	0.33	4.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	メインアリーナの外気は排気口から6m以上離している。	5.0	0.33	5.0	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙での運用を行う。	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	4.4
1 機能性		5.0	0.40	-	-	5.0
1.1 機能性・使いやすさ		5.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	-	5.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	4.0	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建物移動等円滑化誘導基準を満たしている。	5.0	1.00	5.0	-	
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	教室(アリーナ)の天井高は3.2m以上確保。	5.0	0.50	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	3.0	-	
3 内装計画	建物コンセプトに沿った内装計画。インテリアパースで事前検証	5.0	0.50	4.0	-	
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	内装材には防汚性の高い材料選定お行っている。	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	延床面積に対し、十分なスペース清掃員スペースを確保する。	5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.9	0.31	-	-	3.9
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-	
1 耐震性	建築基準法に定められ20%増の耐震性を有する。	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	タイル打込PCによりタイル補修が少ない仕様としている。	5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	外部の露出ダクトはガルバリウムダクトを使用。	4.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上にCを使用。	4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新		-	-	-	-	-
2.4 信頼性		4.6	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備	場所により熱源の分散化。	5.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	湧水利用。節水器具を使用。受水槽の二槽化。	5.0	0.20	-	-
3	電気設備	無停電電源装置の設置。	5.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法	耐震Aクラス。	4.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	精密機器への浸水防止のため排水設備を設置。	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性		4.1	0.29	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり		4.2	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり	教室(アリーナ)の階高3.9m以上確保。	5.0	0.60	1.0	-
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり		3,500N/㎡以上確保。	5.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.3	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性	構造部を痛めることなく更新可能。	4.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース	電気室のトランス増設分の面積を確保。	4.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	5.0
1 生物環境の保全と創出		既存樹木を極力残し地域の群生植物を考慮した植栽計画としている。	5.0	0.30	-	5.0
2 まちなみ・景観への配慮		周囲の主要な眺望点からの良好な景観形成に取り組んでいる。	5.0	0.40	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			5.0	0.30	-	5.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		緑地率30%以上を確保している。	5.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上		風みちを阻害しない建物高さに抑えている。	5.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	4.2
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.8
1 建物の熱負荷抑制		PAL値-34%。	5.0	0.30	-	5.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.20	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライトによる自然採光。ウインドチムニーによる通風利用。	5.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率照明、全熱交換機、タイマー制御換気。 ERR=37.3	5.0	0.30	-	5.0
4 効率的運用			5.0	0.20	-	5.0
4.1	モニタリング	太陽光発電の表示化。各種メーターを中央監視へ出力。	5.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制	年間エネルギー目標値を定めている。	5.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護			3.4	0.15	-	3.4
1.1 節水			3.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.6	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	湧水・雨水を利用しトイレ洗浄や散水に使用。	4.0	0.67	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.63	-	4.3
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用	既存躯体(現第2体育館)の躯体を一部再利用している。	4.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	4.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材	主に国内産材をアリーナ内装材に利用する。	4.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	躯体と仕上材が容易に分別可能。内装材と設備が取り外し可能。	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用	指定化学物質を含まない接着剤を使用する。	5.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-
1	消火剤	水(スプリンクラー)消火設備としている。	4.0	0.33	-	-
2	断熱材		2.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出量が、一般的な建物に対して67%である。	3.1	0.33	-	3.1
2 地域環境への配慮			4.3	0.33	-	4.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		敷地内への日陰形成をし、敷地外への熱的な影響を低減させる。	5.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減	指導された規模を満たし、それ以外にも雨水処理対策を行っている。	4.0	0.33	-	-
2	汚水処理負荷抑制		-	-	-	-
3	交通負荷抑制	地下道による接続行い、車両と自転車の動線分離を行っている。	5.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	室内以外にゴミのストックスペース設置。	4.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.50	-	-
2	振動		3.0	0.50	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			5.0	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの過半を満たしている。	5.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	外壁による反射光がないような仕上げとした。	5.0	0.30	-	-